

氏名	杉原雄策
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5193 号
学位授与の日付	平成27年 6月30日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Analysis of risk factors for colonic diverticular bleeding: A matched case-control study (大腸憩室出血のリスク因子の解析)
論文審査委員	教授 藤原 俊義 教授 土居 弘幸 教授 樋之津 史郎

学位論文内容の要旨

下部消化管出血は時に大量の血便をきたし緊急内視鏡検査を必要とする場合がある。目的：大腸憩室出血のリスク因子の解明。方法：2009年1月から2012年12月まで昭和大学横浜市北部病院で緊急下部消化管内視鏡検査を施行され憩室出血を診断された72名を対象とした。憩室出血の診断基準は憩室からの出血や憩室内に凝血塊を伴うものとし小腸を含め他に出血源がないこととした。憩室出血群と平均年齢および性差をマッチングさせた憩室非出血群149名を選択した。脳血管障害、虚血性心疾患、高血圧、高脂血症、糖尿病、慢性腎不全、骨粗鬆症、高尿酸血症、抗凝固薬、NSAIDsの使用の有無を因子として単変量および多変量解析を行った。結果：平均年齢70歳、男性51名女性21名であった。多変量解析をおこなったところ脳血管障害(OR=8.66, 95% CI: 2.330-32.100, P=0.00126)、高尿酸血症(OR=15.5, 95% CI: 1.740-138.000, P=0.014)、NSAIDs (OR=14.70, 95% CI: 3.890-55.800, P<0.0001)がリスク因子であった。結論：本研究により下部消化管出血の診療の一助になると思われた。

論文審査結果の要旨

本研究は、下部消化管内視鏡のハイボリュームセンターにおいて、血便にて緊急内視鏡を施行した大腸憩室患者を対象に、年齢と性を一致させた非出血性の大腸憩室患者を比較した後方視的なマッチング対照症例研究である。

脳血管障害、虚血性心疾患、高血圧、高脂血症、糖尿病、慢性腎不全、骨粗鬆症、高尿酸血症、抗凝固薬、NSAIDsの使用の有無を因子として単変量、多変量解析を行ったところ、NSAIDs内服と脳血管障害、高尿酸血症が大腸憩室出血の有意なリスク因子であることが明らかとなった。統計学的手法の改良や具体的な診療体系への介入についてはさらなる検討を要するが、本研究成果は下部消化管診療の発展の一助となることが期待されることから、本研究は価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。